

資料1 第5回検討協議会での主な論点と意見対応表

1. 主な論点

○ 第3章

～将来都市構造の構成について～

- ・将来都市構造の話が突然出てくる印象であるため、前段でつながりがあるとよいだろう。
- ・「3-2 まちの将来構造」「(2)誘導に向けた方向性」の順序は、「(1)将来都市構造」の一覧表の順序と合わせるとよりわかりやすくなるだろう。
- ・それぞれの要素がどういった概念で構造化されているのかの解説があるとよい。例：「みどりの拠点」と「崖線」の関係性の説明は、わかりやすい。
- ・将来都市構造として「低層住宅地区」の座りが悪い印象がある。低層住宅地区が持つ意味を考えたうえで、将来都市構造に入れるべきか否かを考えたほうがよいだろう。下町交流ゾーンがあるのであれば、それに並ぶなにかを考えてもいいのかもしれない。
- ・「都市軸・生活軸」の「(2) 誘導に向けた方向性」の「歩きたくなるまちの形成」は良い方向性だ。「道路を車中心から人中心の空間として、人々が集い、交流できる場へと転換していく」と詳しい記述があるので、この内容を「(2) 誘導に向けた方向性」に盛り込むとさらに良くなる。

～将来都市構造図について～

- ・本来、主要交通ネットワーク軸は、一番上位に来るべきと感じる。都市軸より上にあるべきでないか。
- ・コミュニティバス B-ぐるについては、重要な公共交通であるため何らかの位置づけができるとうい。
- ・現行のマスタープランでは「公共公益施設」が示されているが、今回、削除されたことで、大学が公園に見えてしまい、誤解を生じるように感じる。「みどりの拠点」の解説には、「公共公益施設…」といった説明が入っているので、名称を工夫するとよいのかもしれない。
- ・将来都市構造各要素の名称に関して、ゾーンの名称が「ゾーンA」、「ゾーンB」となっているのに違和感がある。
- ・都市核が地図上で見づらいのでわかりやすく工夫をしてほしい。
- ・みどりの拠点の凡例があっていないのではないか。

～広域的な位置づけについて～

- ・都の都市計画区域マスタープランの「国際ビジネス交流ゾーン」については、明確な区域は示されていなかったはずである。掲載図をみると文京区は端に位置しており寂しいイメージである。「中枢広域拠点」であれば、文京区は全域が含まれているのに、わざわざ「国際ビジネス交流ゾーン」の位置づけを区民に示す必要があるのか。

○ 第4章

～横断的整理について～

- ・横断的整理に関連して、みどりと脱炭素のどちらを優先させていくかを考えていくべき。例えば、屋上緑化なのか太陽光パネルなのか、どちらを優先していくべきなのか。世界からみて東京は、脱炭素に向けて舵を切っていないことに危機感を感じており、文京区の将来を考えた時、都市づくりの視点でどちらに優先順位を与えるべきかを考えなければならない。

～土地利用方針について～

- ・東京大学に関するパブコメに関して、土地利用に関する意見が出ているが、これに対して検討するとの回答が記載されていないが、これについては検討をしないのか。検討するのであれば、それがわかる記載に修正してほしい。
- ・高さ制限に関しては、継続的に見直し検証をしていくべきだろう。
- ・港区が23区で緑被率が1番になったということだが、文京区でも、例えば文京ガーデン等緑を沢山植えている民間開発があるので、そうした記載があると良い。
- ・崖線に関しては、開発で無くなってしまっている例もあると思うので、保全に関する視点を入れ込むと良いだろう

○ 第6章

～6-1 (2)戦略的効果的なまちづくりについて～

- ・横断的整理に関して、PDCA サイクルにおいて分野をまたいで推進ができているかという視点を追加するべきだろう。例えば、脱炭素の場合、二酸化炭素の排出量の変化など、環境部門が出しているデータだけを出す例がみられるが、都市部門としてどうしていくべきかを考えることが重要である。
- ・2030年に向けて、具体的にどのようなことをやっていくか、その内容をどこかに記載する予定はあるのか。

～6-2 (1)区民等が主体のまちづくりの推進について～

- ・都市マスタープランの推進方策として4項目を記載しているが、2点目のデータの活用については、必要性を感じるものの、その他の項目と並列で書くべきことなのかが悩ましい。
- ・データ活用に関しては、まずはデータベースを作って何かに使うといった感じに読み取れる一方で、新たな魅力の創造ではビックデータや Society5.0 などのキーワードも上がっているがその具体策が示されていないため、それに合わせて加筆できると良いのではないか。
- ・進捗管理に関して、総合戦略との連携とあるが、都市マスタープランの内容はPDCAで評価して見直しするのは難しい。優先順位をつけて評価していくことを考えていくとよいだろう。
- ・都市マスタープランでの進捗管理の掲載は、現在の素案程度の記載に留め、具体的な検討は、今後の会議体で考えるという理解でよいか。他区での取組も参考にすると良いだろう。

○ 地域別の方針について

- ・将来都市構造図はよく整理されているが、無味乾燥で実態が見えてこない。地区別構想で味付けされて文京区らしさが滲みだしてくる。将来都市構造図の南側の6つの都市拠点、高次な都市機能が集積している都心の一角ということになるので、白山、茗荷谷、江戸川橋周辺で文京区らしさを確認して読み込んでいくのが良い。

○ その他

- ・アンケート調査の前提条件を加筆したほうが良い。
- ・同じ図を掲載する場合は、解説は先に出てくる図に入れる。
- ・年号の表記を統一する。

2. 主なご意見に対する対応

		ご意見	対応方針
1	第3章	将来都市構造の構成について	・将来都市構造の話が突然出てくる印象であるため、前段で <u>つながりがある</u> とよいだろう。(谷口委員)
2		・「3-2 まちの将来構造」「(2)誘導に向けた方向性」の順序は、「(1)将来都市構造」の一覧表の順序と合わせるとよりわかりやすくなるだろう。(綾井委員)	
3		・それぞれの要素が <u>どういった概念で構造化されているのかの解説</u> があるよい。例：「みどりの拠点」と「崖線」の関係性の説明は、わかりやすい。(綾井委員)	
4		・ <u>将来都市構造として「低層住宅地区」の座りが悪い</u> 印象がある。低層住宅地区が持つ意味を考えたいうえで、将来都市構造に入れるべきか否かを考えたほうがよいだろう。下町交流ゾーンがあるのであれば、それに並ぶなにかを考えてもいいのかもしれない。(村木会長)	
5		・「都市軸・生活軸」の「(2) 誘導に向けた方向性」の「歩きたくなるまちの形成」は良い方向性だ。 <u>「道路を車中心から人中心の空間として、人々が集い、交流できる場へと転換していく」と詳しい記述があるので、この内容を「(2) 誘導に向けた方向性」に盛り込むとさらに良くなる。</u> (綾井委員)	
6	将来都市構造図について	・本来、 <u>主要交通ネットワーク軸</u> は、一番上位に来るべきと感じる。都市軸より上にあるべきでないか。(谷口委員)	○「主要交通ネットワーク」は「都市軸」及び「生活軸」の前に記載することとしました。
7		・コミュニティバス B-ぐるについては、重要な公共交通であるため何らかの位置づけができるとよい。(福富委員)	○コミュニティバス B-ぐるについては、第4章 部門別の方針の「道路・交通ネットワーク方針」において「公共交通機能の利便性向上」として具体的な方針を掲げ、道路・交通ネットワーク方針図にも経路とバス停の位置を記載しています。
8		・ <u>現行のマスタープランでは「公共公益施設」が示されているが、今回、削除されたことで、大学が公園に見えてしまい、誤解を生じるように感じる。</u> (村山委員) ・「みどりの拠点」の解説には、「公共公益施設…」といった説明が入っているので、 <u>名称を工夫するとよいのかもしれない。</u> (村木会長)	○2011 版都市マスタープランと同様に、将来都市構造図のベース情報に「公共・公益・教育施設」を表示することとしました。
9		・将来都市構造各要素の名称に関して、 <u>ゾーンの名称が「ゾーン A」、「ゾーン B」になっているのに違和感</u> がある。(谷口委員)	○図面の表現、凡例を修正しました。
10		・ <u>都市核が地図上で見づらい</u> ので、わかりやすく工夫してほしい。(村木会長)	
11		・みどりの拠点の凡例があっていないのではないか。(谷口委員)	
12	広域的な位置づけについて	・都の都市計画区域マスタープランの「国際ビジネス交流ゾーン」については、 <u>明確な区域は示されていない</u> はずである。掲載図をみると文京区は端に位	○東京都都市計画区域マスタープランにおけるゾーンや拠点の位置づけは、区の都市マスタープランが即すべき上位の位置づけとなります。

ご意見			対応方針	
		置しており寂しいイメージである。「中枢広域拠点」であれば、文京区は全域が含まれているのに、わざわざ「国際ビジネス交流ゾーン」の位置づけを区民に示す必要があるのか。(福富委員)	○国際ビジネス交流ゾーンとともに中枢広域拠点域についても明示し、説明を加えました。	
13	第4章	横断的整理について	<p>・横断的整理に関連して、<u>みどりと脱炭素のどちらを優先させていくかを考えていくべき</u>。例えば、屋上緑化なのか太陽光パネルなのか、どちらを優先していくべきなのか。世界からみて東京は、脱炭素に向けて舵を切っていないことに危機感を感じており、文京区の将来を考えた時、都市づくりの視点でどちらに優先順位を与えるべきかを考えなければならない。(村木会長)</p>	<p>○みどりと脱炭素はそれぞれ重要な課題であり、両立するように努めることが基本ですが、どちらかを優先させる必要が生じた場合には、法令等を遵守し、将来都市像やまちづくりの目標及び将来の姿などを踏まえて個別に判断することになると考えています。</p> <p>○都市マスタープランでは、見直しの視点の一つとして脱炭素をとりあげ、3章のまちの将来の姿では、脱炭素を実現し、自然環境が有する多様な機能が生かされた持続可能なまちを掲げています。また、「低炭素」から「脱炭素」に記載を修正し、第4章 部門別の方針でも、脱炭素を重視した内容となるように努めています。さらに、公共施設の整備改修にあたっては、脱炭素についても先導的な役割を果たす旨を記載しています。</p>
14		土地利用方針について	<p>・東京大学に関するパブコメに関して、土地利用に関する意見が出ているが、これに対して検討すると回答が記載されていないが、これについては検討をしないのか。検討するのであれば、それがわかる記載に修正してほしい。</p>	<p>○パブコメの結果では、意見に対する文京区の考え方を公開しています。</p> <p>公共・公益・教育施設は、区全体に占める面積が大きく、魅力の継承や創造の観点から重要な役割を果たすことが期待されるため、土地利用方針や高さの方針について区分を設定し、方針図にも反映しました。</p>
15			<p>・高さ制限に関しては、継続的に見直し検証をしていくべきだろう。(福富委員)</p>	<p>○文京区では、「建築物の高さに関する基本方針」に基づき、平成26年3月に都市計画高度地区を変更し、絶対高さ制限を定める高度地区を指定しています。</p> <p>○現在のところ、文京区全域で高さ制限を見直すことは考えておりませんが、地域の状況に応じた高さ制限の見直しについては、地区計画などにより地域ごとに行われていくものと考えています。</p>
16			<p>・<u>崖線に関しては、開発で無くなってしまっている例もあると思うので、保全に関する視点を入れ込むと良いだろう</u> (福富委員)</p>	<p>○第4章 部門別の「緑と水のまちづくり方針」の3) 道路や河川における緑と水のネットワーク軸の形成において、崖線等連続したみどりの確保について追記しました。</p>
17			<p>・港区が23区で緑被率が1番になったということだが、文京区でも、例えば、文京ガーデン等<u>緑を沢山植えている民間開発があるので、そうした記載があると良い</u>。(福富委員)</p>	<p>○第1章「1-3 まちづくりの成果と今後の課題」の「(3) 緑と水、①これまでの成果」において、これまでの成果として民間開発による緑化に関する記載を追記しました。</p> <p>○また、第4章 部門別の方針の「緑と水のまちづくり方針」の「2) 住宅等施設における緑のまちづくりの推進、②民間開発等における緑の創出」において、再開発等における緑地の確保等に関する記載をしております。</p>
18	第6章	6-1 (2)戦略的効果的なまちづくりについて	<p>・<u>横断的整理に関して、PDCAサイクルのなかに、分野を越えた推進ができていくかの視点を追加するべき</u>だろう。例えば脱炭素の場合、二酸化炭素の排出量の変化など、環境部門が出しているデータだけを出す例がみられるが、都市部門としてどうしていくべきかを考えることが重要である。(村山委員)</p>	<p>○次回の都市マスタープラン改定に先立ち、区民等が参加した会議体で評価と検証を行うこととしています。その際、3章まちづくりの目標と将来構造、4章部門別の方針、5章地域別の方針それぞれについて評価を行うこととしました。</p> <p>○また、4章部門別の方針では、見直しの3つの視点に関する評価もおこなうこととしており、PDCA サイクルの中に分野を超えた推進についての視点も含めることができると考えています。</p>
19			<p>・<u>2030年に向けて、具体的にどのようなことをやっていくか、どこに記載する予定はあるのか</u>。(福本委員)</p>	<p>○都市マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針を記載しているため、実現に向けた個別の事業等については「文の京」総合戦略や関連する個別計画に記載されるものと考えています。そのため、「第6章 実現に向けて」の「(4) 都市マスタープランの進行管理」では、「文の京」総合戦略や関連する個別計画の進捗状況を把握するとともに、都市マスタープランに関するアンケート調査などを実施したうえで、区民等が参加する会議体において都市マスタープランの評価・検証を行うこととしています。</p>

ご意見			対応方針	
20		6-2 (1)区民等が主体のまちづくりの推進について	・都市マスタープランの推進方策として4つがあがっているが、2点目の <u>データの活用については、必要性を感じるものの、その他の項目と並列で書くべきことなのか悩ましい。</u> (西浦委員)	○「6-2 持続的なまちづくりのための推進方策」については、ご指摘を踏まえ記載を見直しました。
21			・データ活用に関しては、まずはデータベースを作って何かに使うといった感じに読み取れる一方で、新たな魅力の創造では <u>ビックデータや Society5.0 などのキーワードも上がっているがその具体策が示されていないため、それに合わせて加筆できると良いのではないか。</u> (一針委員)	○ご指摘を踏まえ4章部門別の方針、5章地域別の方針、6章実現化に向けてにおいてそれぞれ加筆しました。
22			・進捗管理に関して、総合戦略との連携とあるが、 <u>都市マスタープランの内容はPDCAで評価して見直しするのは難しい。優先順位をつけて評価していくことを考えていくとよいだろう。</u> (西浦委員)	○「6-2 持続的なまちづくりのための推進方策」の「(4) 都市マスタープランの進行管理」では、「文の京」総合戦略や関連する個別計画の進捗状況を把握するとともに、都市マスタープランに関するアンケート調査などを実施したうえで、区民等が参加する会議体において都市マスタープランの評価・検証を行うこととしています。
23			・ <u>都市マスタープランでの進捗管理の掲載は、現在の素案程度の記載に留め、具体的な検討は、今後の会議体で考えるという理解でよいか。</u> 他区での取組も参考にすると良いだろう。(村木会長)	○次回の都市マスタープラン改定に先立ち、区民等が参加した会議体で評価と検証を行うこととしています。その際、3章まちづくりの目標と将来構造、4章部門別の方針、5章地域別の方針それぞれについて評価を行うこととし、関連計画の一覧表、部門別の評価指標の例示、アンケート調査内容などについて加筆しました。
24	その他	地域別の方針について	・ <u>将来都市構造図はよく整理されていると思うが、無味乾燥で実態として見えてこない。地区別構想で味付けされて文京区らしさが滲みだしてくる。将来都市構造図の南側の6つの都市拠点は高次な都市機能が集積している都心の一角ということになるので、白山、茗荷谷、江戸川橋周辺で文京区らしさを確認して読み込んでいくのが良い。</u> (西浦委員)	○第5章の地域別の方針で、地区別の方針を記載し、各ゾーンや拠点等での取組を記載します。
25		体裁等	・アンケート調査の前提条件を加筆したほうが良い。(谷口委員) ・同じ図を掲載する場合は、解説は先に出てくる図に入れる等、完成度を高めてほしい。(谷口委員) ・年号の表記を統一する。(杉田委員)	○区民意識調査の実施概要については、第1章「1-3 まちづくりの成果と今後の課題」の冒頭に参考として掲載することとしました。 ○その他、図表の大きさや見やすさなどを修正しました。